

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
337	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名（原題／訳）</b>	
Oral squamous cell cancer: early detection and the role of alcohol and smoking. 口腔扁平上皮癌：早期発見とアルコールと喫煙の役割	
<b>執筆者</b>	
Zygiogianni AG, Kyrgias G, Karakitsos P, Psyrri A, Kouvaris J, Kelekis N, Kouloulis V.	
<b>掲載誌（番号又は発行年月日）</b>	
Head Neck Oncol. 2011 Jan 6;3:2.	
<b>キーワード</b>	
口腔、扁平上皮癌、アルコール、喫煙、早期発見	
<b>要旨</b>	
<b>目的：</b> 口腔扁平上皮癌は世界中で発生が目立っており予後が悪いため、疾患予後を変更するかもしれない要因の研究が奨励されている。	
<b>方法：</b> 文献検索のデータベースは Medline/Pub Med を用いて、口腔癌、アルコール摂取、遺伝子多型、喫煙、予防のキーワードで、すべての種類の記事をウェブベースで検索した。検索は公表日の制限がない英語記事に限った（最終更新 2010 年）。 本研究では、我々は口腔扁平上皮癌発達の細胞学診断と現在診断技術でよく使用されているマーカーを用いて口腔扁平上皮癌の要因を探った。またアルコール関連の癌リスクにおける飲酒と遺伝子多型の併存の影響についてもレビューした。	
<b>結果：</b> 喫煙と飲酒の相互作用は明らかに気道消化管癌のリスクを上昇させた。喫煙と飲酒の相互作用はかなり疾患に影響しているように見える。	
<b>結論：</b> 公表された科学データはより効果的な予後を開発するために有用な方法を示している。診断に使用できる新しい予後指標を明らかにすることにより、最も効果的な治療が達成できる。	